



Title	追悼 : 關 淳一さん
Author(s)	中村, 安秀
Citation	目で見るWHO. 2024, 90, p. 28-29
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/99627
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

追悼：關 淳一さん



公益社団法人 日本WHO協会
理事長

中村 安秀 (なかむら やすひで)

關淳一先生のあとを継いで、2018年に公益社団法人日本WHO協会の第9代理事長に就任。座右の銘は、「見る前に跳べ！」。

2010年4月から2018年6月まで日本WHO協会理事長として、8年余りにわたり協会の最も困難な時期に強いリーダーシップを発揮された關 淳一（せき・じゅんいち）先生が2024年6月9日にお亡くなりになりました。日本WHO協会を代表して、謹んで哀悼の意を表します。

祖父は、大阪市の人口が帝都東京を上回っていた大大阪時代の全盛期に大阪市長を務め、御堂筋の拡幅など後世に残る大事業を成し遂げた關 一（せき・はじめ）氏。1961年に大阪市立大学医学部卒業。内科医。大阪市環境保健局長、大阪市助役を経て、2003年第17代大阪市長に就任されました。

その後、2010年4月から2018年6月までの8年間にわたり、日本WHO協会が直面していた困難と立ち向かう激

動の時期の理事長として、強力なリーダーシップを発揮されました。業務運営とWHOのロゴ使用に関して厚生労働省より改善勧告を受け、倫理委員会を設置し、会計処理などに問題のあったすべての支部を閉鎖し、事務局を京都から大阪に移転し、大阪商工会議所に活動拠点を定めたばかりの時期に就任され、清廉潔白を旨とする關淳一先生が理事長として組織体制を一新されました（写真1）。

2010年に理事長に就任された直後の『目で見えるWHO第43号（2010年初夏号）』において、次のように書かれています。

「世界保健機関（WHO）憲章前文では、健康について『健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあるこ

とを言います。（日本WHO協会訳）』と定義しています。人の健康について、この三本の柱から定義していることは極めて重要な意義があると考えます。とくに、健康を維持するための三本目の柱として、社会的という要素を入れている点は決して見逃してはならないことと思います。私は、この定義はいつの時代にも通用する、そして今後我国も含めて世界中の人々が、常に念頭におかねばならないものと考えています。一方、WHOの淵源は、人々が交易の為に大陸間を行き来しだし、とくに感染性疾患が国を越えて拡がる様になり、一国では対処できなくなった14世紀に遡ると言われています。グローバル化の現在、昨年の新型インフルエンザの急速な世界中の国々への伝播を考える迄もなく、WHOの果たす役割は、その画でも今後益々大きくなることは明かです。現在、WHOは健康に関する科学的、技術的情報を最も蓄積している機関であります。したがって、WHOの行っている活動や有する情報を適切に、広く国民に知ってもらえる様にすることは、日本WHO協会の重大な使命であります。」

公益社団法人日本WHO協会の設立時からの理念である「WHO憲章の精神」を普及することに言及され、その後の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の出現を予見するかのような世界規模の感染症によるグローバルヘルスな脅威が綴られています。



写真1 日本WHO協会総会（2011年3月）



写真2 WHO協会フォーラム「WHOと日本」(2010年9月)
右は講演したジェイコブ・クマレサンWHO神戸センター所長



写真3 左は、マーガレット・チャンWHO事務局長(当時)

また、続けて、日本 WHO 協会の組織運営に関して厳しい決意表明が述べられています。

「日本 WHO 協会の全構成員が、その新たな歴史に向かって、その使命感を高く維持し続け、少しでもそれに倅る行為に対しては、厳正に対処する決意を新にしたいと考えています。その為には、活動や意志決定の透明化が必須と考えます。」

日本 WHO 協会の新生に向けた活動が始まりました。2010 年には、WHO 神戸センターのクマレサン所長を招き、フォーラム「WHO と日本」を開催しました(写真2)。2012 年には、ロス所長による禁煙セミナーを開催しています。また、WHO でインターンシップする若者に助成金を支援する活動も始まりました。2012 年には公益法人格を取得し、2014 年には WHO 本部のファクトシートの翻訳出版権を付与されるに至りました。このように、短期間のうちに組織としての基盤が整備され、日本 WHO 協会の事業の展開に大いに貢献されました(写真3)。

關先生でなければ成しえなかった改革の種が実り、おかげさまで現在は、機関誌『目で見える WHO』の充実、『関西グローバルヘルスの集い(KGH)』の発展、4月7日の「世界保健デー」の定着化な

ど、日本 WHO 協会の活動がますます広がっています。理事長をやめられた後も、機会あるたびに事務局に立ち寄られ、あるいはセミナーに顔を出されていたお姿が目につかびます。関西圏最大のグローバルヘルスの祭典である「ワン・ワールド・フェスティバル」に日本 WHO 協会としてはじめてブース展示を行い、セミナーを主催したときも、最前

列のイスに座り、観客のおひとりとしてご参加いただいた姿が忘れられません。

大変寂しくなりますが、私たちは關先生の思いを引き継いで、今後もグローバルな視点から WHO 憲章の理念を掲げ、世界の人々の健康とウェルビーイングにつながる活動に取り組んでいきたいと思っています。

關 淳一(せき じゅんいち) 先生略歴

1935年8月	大阪府大阪市にて生まれる
1961年3月	大阪市立大学医学部医学科卒業
1967年10月	大阪市立大学医学部助手
1970年10月	大阪市立大学医学部講師
1985年7月	大阪市立桃山市民病院第1診療部長
1992年4月	大阪市環境保健局長
1995年12月	大阪市助役
2003年12月	大阪市長(第17代)
2005年10月	大阪市長辞職
2005年11月	大阪市長
2007年12月	大阪市長退職
2009年3月	公益社団法人日本WHO協会 理事・最高顧問
2010年3月	公益社団法人日本WHO協会 理事長に就任
2018年6月	日本WHO協会理事長退職
2024年6月9日	逝去(88歳)

